

- 大妻 コタカ 先生の言葉から - 「隣を愛する」 - 昭和10年5月「ふるさと」から抜粋

「おのが眼の力で見たと思うなよ、月の光で月を見しなり」 - 月の光がなくてでは見ることのできない月をも、自分自身の力で見たと思うのが、人間の常であります。人の生活には必ず隣があります。私共を幸福にするときも、不幸に陥れるときにも、月の光にも等しい隣の力が常に大きく働くのでございます。

From the Principal

- 世界はワン・コミュニティ -

校長 野崎 裕二

こんにちは。校長の野崎です。新学期が、過去にない形でスタートして、早くも7月になりました。現在は、分散登校、短縮授業、そしてオンラインでの学習を並行して行っていますが、2学期には、皆さんの安全に配慮した新しい行動様式を取り入れつつも、通常に近い形で、授業や部活動、そして各種行事が実行できるよう準備を進めています。今後は常に感染拡大防止を視野に入れて生活することが当たり前のように習慣化することが重要なことだと思います。こういったことが習慣化されていく前提で、皆さんはこれまで通りに自分の個性を大切に育み、どんな仲間の個性も大切に思い、その互いの違いを活力として、様々なことに対して、まず「前向きに自ら挑戦していくこと」を意識してほしいと思っています。

前回の学校通信の中で、『いつの時代でも、自分の幸福は、ほかの人の幸福に依存しています。自分だけが幸福になることはできません。ほかの人の感染を防ぐには、自らが感染しないようにする必要があるように、他国が感染していないことも、自国の利益になる。SDGsの考え方もそうであるように、隣や地域のために行った行動は、必ず自分に還元されます。』と書きました。この考え方は、本校が文科省に申請し、認定を受けたSGHA(スーパー・グローバル・ハイスクール・アソシエイト)の活動のコンセプト「世界は、ワン・コミュニティ」に近づく行動そのものです。東京・中野にある本校が「ひとつづくり、繋がりづくり、地域づくり」の拠点になっての活動を昨年度まで5年間取り組んできましたが、今年度以降もこの視点での活動を継続、発展させている基本的なコンセプトです。

こういった活動で大切なことは、冒頭に示した通り、「まず前向きに自ら挑戦していくこと」ですが、「世界は、ワン・コミュニティ」、「ひとつづくり、繋がりづくり、地域づくり」に欠かせない視点が「俯瞰(ふかん)」*1です。自分の個性を大切に育み、どんな仲間の個性も大切に思い、その互いの違いを活力として協働していくために必要な視点です。

現在、7月初旬の東京の新型コロナ感染状況は、毎日100人以上という数字が報道され、日本全体でも感染拡大はまだ収束していません。さらに世界に目を向けてみると、本日時点で全世界の感染者数は1100万人を超え、死者数は50万人を超え、まだピークに達していないようですが、いくつかの国では感染が拡大しているのにもかかわらず、日常的な生活ができるよう経済活動を通常に戻しています。

多くの人は、仕事による収入で買い物をしたり、食事をしたり、電気やガスの料金を払い、車にガソリンを入れたり、子供の洋服を買ったりしています。経済活動がストップしてしまうと、日常生活に大打撃を受けることを考えると、各国とも苦渋の選択をせざるを得ない状況にあると思います。今後、世界はどうなっていくのかと不安を抱えている人も少なくないはずですが、それでもきっと人類は協力して今回の危機を乗り越え、新しい社会を構築していくと私は思っています。

今年はユネスコによる「ESD for 2030」の開始年にあたります。これは昨年末の国連総会において決議され、ESD(持続可能な開発のための教育)はSDGs(持続可能な開発目標)の推進エンジンとして国内外から注目を集めています。

— ESDの考え方は、

- ・ 人間の尊厳はかけがえないこと。
- ・ 私たちには公正な社会をつくる責任があること。
- ・ 現世代は将来世代に対する責任を持っていること。
- ・ 人は自然の一部であること。
- ・ 多様性を尊重すること。



ということです。人と人、人と自然がより良いバランスを保つために、異なる生活文化や価値観を持った人々がともに持続可能な世界の構築を目指す「世界は、ワン・コミュニティ」という考え方が広がっていくよう、自らも学び、行動していきましょう。

*1 俯瞰:自分からの視点だけでなく相手の立場に立った視点や、自分と相手の置かれている状況を、たとえばその状況をモニター映像で冷静に見つめるような客観的視点で、物事を判断すること。

自分→自分たち、地域、自国、地球… / 相手→他の人たち、自然環境、他国、宇宙…



野崎校長のメッセージにある通り、本校はこの5年間、SGH(スーパーグローバルハイスクール)のコミュニティ(アソシエイト校)として、さまざまな取り組みを進めてきました。「世界を繋ぐ」ためには、論理的にものごとを捉え、課題を発見し、世界の人々と協働して、その解決に取り組んでいくアカデミックな言語力が必要です。

本校のSGHへの活動について、専門的な立場から、常にアドバイスをいただいている大妻女子大学・同大学院教授、言語学博士の服部孝彦先生から、今回は特別にこの学校通信に寄稿いただきました。

服部先生は、ご自身が、文部科学省SGHやWWL等の、国のグローバル化のためのリーディング・プロジェクトの中心メンバーとして活躍されている方で、全国のすべてのSGH校の審査もされている先生で、かつ本校の英語教育・グローバル教育のアドバイザーとして本校を支援してくださっています。

本来であれば、直接、服部先生のご指導やアドバイスを頂く機会を1学期にも設定していましたが、残念ながら、この社会状況でそれができませんでした。そこで、この学校通信で、服部先生から、「アカデミックな英語力を獲得するためのアドバイス」を頂きます。

アカデミック英語におけるパラグラフと段落

日本人が、論理的に書かれた英語を読んだり、論理的に英語を書いたりするのが苦手なのは、単に英語力だけの問題ではありません。その原因の一つは、論理的な文章を読んだり書いたりするトレーニングを積む機会が、不足しているからかであると、私は考えております。

日本では起承転結という文章作法を教わります。米国で教育を受けた私は、ティーンエージャーで日本に帰国するまで起承転結に関する知識はありませんでした。起承転結は古代中国から伝わったといわれているものです。そもそも起承転結は漢詩の絶句に用いられたスタイルで「第一の起句で詩思を提起し、第二の承句で起句を承け、第三の転句で詩意を一転し、第四の結句で全詩意を総合する」ものです。日本では、論説文を書くときも起承転結に注意するというような指導がされることがあります。起承転結とは、転で、起と承からすると外れた文章を提示し、そして結では全てがまとまるという文学的な文章を書く作法といえます。実は、起承転結はかなり高度な文章作法なのです。

起承転結は、文学作品ならともかく、論説文に向けた構造ではないとアカデミックスの世界では考えられています。論説文はあらかじめ論点がわかっている文章です。文学作品のように予測できない話の展開や結論を楽しむものではありません。論説文の場合、論理の流れが一本になっていなければならないので「転」が入ってはいけません。問題提起がなされ、その議論が進んでいく時に、「転」を入れてしまうと思考を止めてしまうことになるからです。

アカデミック英語では、論説文の構造は大きく2つに分けることができます。1つは導入部、本論部、結論部といった論説文全体の大きな構造です。もう1つは個々のパラグラフといった小さな構造です。この両者がきちんとしていない限り、よい論説文とはいえません。

英語のパラグラフは、書き手が伝えたい内容を、1つの主題に基づき複数の文を論理的につなげて提示したものです。日本語の段落に該当する英語はparagraphですが、日本語の段落と英語のparagraphは意味が異なります。日本語の作文の場合、文章が長くなりすぎるので、読みにくくなるのを防ぐために適当なところで段落を切ることがよくあります。英語のparagraphは、ひとつの考えのまとまりで、単に読みやすい長さで切るものではありません。基本的に英語の論説文におけるパラグラフはひとつのアイディアを示す単位です。

英検の上位級、IELTS、TOEFL iBTや難関大学の自由英作文で求められる力は英文和訳や和文英訳の力だけではなく、英語の知識だけでなく、論理的思考力が求められます。まさしくアカデミック英語の力を身に付けているかをテストされるわけです。

英語学習において模範的なパラグラフを読み、その論理構成を習得することは大切です。ただ、学習者は模範的なパラグラフを読み、その真似をすればアカデミック英語の力がつくわけではありません。アカデミック英語の書き方とその背景にある理論展開を十分に理解しなければ上手に英文が書けるようにはならないのです。英語の学習は奥が深いですが、それだけにやりがいがあるといえます。アカデミック英語の力を身につけることができれば、必ず皆さんの将来に役立ちます。



大妻女子大学・同大学院教授、早稲田大学講師、言語学博士 服部孝彦

* 服部孝彦 先生：初等・中等・高等教育を日米両国で受けた元帰国子女。帰国子女を育てた父親でもある。米国ケンタッキー州立ムレーン大学(MSU)大学院客員教授等を経て現職。2011年度から、大妻中野中学校・高等学校の英語教育、国際教育のアドバイザー。(公財)海外子女教育振興財団外国語保持教室アドバイザー、国連英検統括監修官兼外国人面接官指導研修スーパーバイザー、元NHK英語教育番組講師。文部科学省SGH、WWL等の、国のグローバル化のためのリーディング・プロジェクトの中心メンバー。

* 服部先生が、スーパーバイザーも務められている IELTS を今年も本校で実施します。8月6日実施です。すでに申し込みを何人もいただいておりますが、まだ、受験できます。受験希望の人は、下記まで申し込んでください。

* また、IELTSについて知りたい、留学した成果の英語力を確かめたいなど、大学入試で、IELTSを活用したいなどの人のために、勉強方法なども含めたIELTSセミナーもオンラインで行います。こちらも、すでに多くの皆さんに申し込みを頂いております。まだ、申し込むことができます。こちらは無料ですので、ぜひ、気軽にご参加ください。



IELTS で世界とつながる

年間受験者数 380 万人以上の IELTS で世界への扉を開けよう!!

IELTS 公式テストセンター : JSAF (ジェイサフ)

大妻中野中学校・高等学校

2020 年 8 月 6 日(木)

【会場】大妻中野中学校・高等学校

【集合時間】8 : 30

IELTS 申込締切 7/30(木)まで (定員になり次第締め切り)



IELTS で世界とつながる

留学または IELTS に興味のある方は奮ってご参加ください!

年間受験者数 380 万人以上の IELTS で世界への扉を開けよう!!

大妻中野中学校・高等学校

IELTS オンラインセミナー

2020 年 7 月 20 日(月)

15 : 00 ~ 16 : 00

【参加方法】事前予約制。

※説明会は Zoom で行います。PC もしくはスマートフォンから参加してください。

【参加申込】: 7 月 13 日(月) 17 : 00 までに下記内容をお申込み。

メールアドレス: tolawase@otsumanakano.ac.jp 宛に、

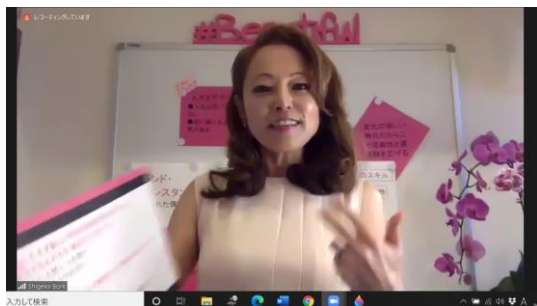
※「IELTS オンラインセミナー参加希望」と「生徒氏名、学年、クラス、出席番号」を明記。

過去に IELTS を受験した方は、バンドスコア (詳細スコアを含む) も添付ください。

【内容】

- IELTS とは?
- 各セクションの説明
- IELTS の種類について
- 申込方法について
- テスト当日の流れ
- よくある質問について
- JSAF-IELTS の 3 特典について
- コンピューターで受験する IELTS

From Washington DC - ボーク重子氏によるライブ・オンラインセミナーが実施されました! -



6月28日に、アメリカ・ワシントンDCと本校を直接結んで、ボーク重子氏による特別ライブ・オンラインセミナー、「ポスト・コロナを生き抜くために - ポジティブに、そして前向きに、Your Lives Matter! -」が実施されました。ボーク氏は、本校が、5年前にSGHアソシエイト校となって以来、本校のグローバル教育、キャリア教育についてサポートをいただいていたワシントンDC在住のライフプランナー・ライフコーチ・著述家の方です。

今回、「今のこの社会状況の中で、ポスト・コロナに向けての心構えやこの変化を通じて感じたこと、グローバル社会で生きていくことなど。そして、今、世界がこのような時であるからこそ、ポジティブで前向きになれるセミナーを、大妻中野の皆さんと参加型で実施したい」というボーク氏の提案で実現

しました。セミナーは、日本時間では、日曜日の朝、9時でしたが、多くの本校の生徒、保護者がオンラインで参加してくださいました。

セミナーでは、「現在のコロナ禍により、人生設計にネガティブな影響を受けた。計画がすべて台無しになってしまった。」とネガティブに考えない人は世界中どこにもいません。しかし、今は、ピンポイントのゴールに向かって、綿密に計画された道を進んで、目標を達成するという生き方ができない時代であることをまずしっかりと受け止めることを、ポジティブにパワフルに語ってくれました。

その上で、ボーク氏は、スタンフォード大学の教育心理学者、ジョン・クランボルツ教授が提唱した「計画的偶発性理論-Planned Happenstance Theory」を引用して、「偶然」の積み重ねとそれに対応するオープン・マインドセットが、キャリア形成に大きな影響を与えることを紹介してくれました。たとえそれが、今はネガティブなことであっても「偶然の出来事」を積極的かつ意識的に自分のキャリア設計に活用していこうとするマインドの作り方、実践方法を、全身で表現してくれました。

ジョン・クランボルツ(John D. Krumboltz)教授が説明する「計画された偶発性」をポジティブに捉えるためには、以下の5つの行動特性がとても大切だと述べています。

1. 好奇心 - Curiosity
2. 持続性 - Persistence
3. 柔軟性 - Flexibility
4. 楽観性 - Optimism
5. 冒険心 - Risk Taking



こうした行動特性を育むには、常にアンテナを張り、人に対して、物事に対してオープン・マインドで接するという「非認知スキル」が大切であることも教えてくださいました。

講演の後は、参加した生徒・保護者とのオンラインでのやり取りとなりました。参加した皆さんからは、とてもポジティブな質問やフィードバックが寄せられ、それに一つ一つ、ボーク氏が答えていくという素晴らしいインタラクションになりました。以下に寄せられた質問、フィードバックの一部を紹介しす。

- ・ スティーブ・ジョブズが同じスピーチ(スタンフォード大学コマンズメント)でfor your passionと言っていたことを記憶していますがブランド・ハップンスタンスのアプローチでは自分の直感や情熱はどう捉えれば良いのでしょうか？
- ・ 好奇心、楽観性、柔軟性、冒険性、持続性の5要素が重要、自分の専門性を高めること自分の幅を広げることのバランスはどのように考えれば良いのでしょうか？ついつい早めに方向性を決めて限られた時間、エネルギーについて対象を絞って費やすべきと考えてしまいます。
- ・ とても楽しみにしていました。前向きになりました。娘にも前向きになるために親がどのような声かけをしていったらよろしいのでしょうか？
- ・ 初めてボークさんの講演に参加させていただきました。本当にポジティブになりました。ありがとうございました。
- ・ 今日だけで何かすごいものを得た気がします。これからは何でもチャレンジしたいです。
- ・ 生徒の父です。子供の自己肯定感を高めるためにアドラー心理学を少しかじろうかと思っています。
- ・ 初めてボークさんのお話を聞き目から鱗です。子供にもいろいろ経験させたいですが、私も何かチャレンジしてみようと思います。
- ・ 娘と一緒に聞かせていただきました。ありがとうございます。コロナでなんとなく気持ちが沈んでいる中、とてもポジティブな気持ちになりました。

最後に、このセミナーの締めくくりとして、一緒に参加いただいた大妻女子大学・大学院教授の服部孝彦先生から、「ボーク氏のお話は、パワフルな実践を通して人生を構築していこうとするものだが、論理的研究の裏付けをもとに提案されており、アカデミックの視点から見ても、十分に説得力のある素晴らしいものです。」というお話がありました。

本校は、「Beyond School」という合言葉のもと、世界中のさまざまなサポーターの方々と直接、繋がり、カラフルな体験をするチャンスがたくさんあります。ボーク氏のワシントンDCからのセミナーは、そうした大妻中野の特徴を端的に示す機会となりました。

この場をお借りして、このセミナー講師のワシントンDC在住、ボーク重子氏、大妻女子大学大学院教授・服部孝彦先生を始め、参加いただいた保護者、生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。

* ボーク重子氏：イギリスで現代アート史の修士号を取得後、ワシントンDCに移住。出産、専業主婦を経て2004年にアジア現代アート専門ギャラリーを同地で立ち上げ、2006年には同地のアート界に多様性をもたらしたことを評価され、オバマ大統領(当時上院議員)らと一緒に「ワシントンの美しい25人」に選ばれました。その後、20年近く続けたアートビジネスからライフコーチに転業。2017年「全米最優秀女子高生」大学奨学金コンクールでお嬢さんが優勝し、その教育法が多くのメディアに取り上げられ、作家としても活躍中。講演会やワークショップを日米で展開、メディアにも多数、出演。



Current Topic

- 大妻模擬国連オンライン会議に参加しました！ -



大妻模擬国連会議 ONLINE 会議

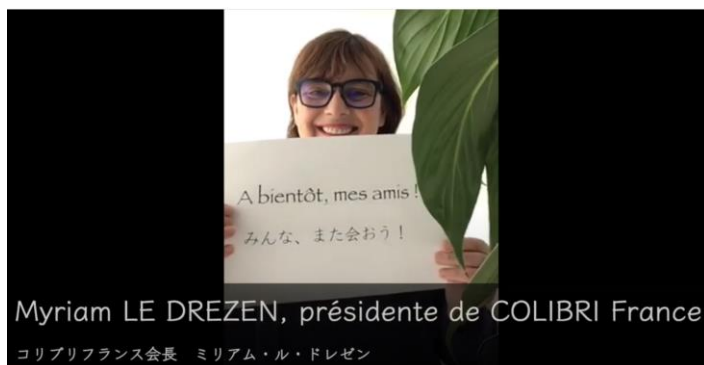
いて具体的政策を各国大使と交渉しました。

今回、学校が主催するオンライン模擬国連は全国でも初めての試みです。全体の資料共有、議事進行、決議案作成はGoogle Classroom、各国大使との交渉はZOOMを用いるという画期的な方法で会議が進められました。約100名の生徒が、ZOOMのブレイクアウトルーム機能を駆使して議論が展開されました。

大妻高校の高校2年生が素晴らしいリーダーシップを発揮して、会議規則や手順、事前課題、課題の共有、会議進行をすべて行っていた姿に、大妻中野生も大きな刺激を受けた様子です。今回の経験を、今年度実施予定の第6回大妻中野模擬国連大会にも活かしていきたいと思います。

6月14日(日)に大妻中高が主催する大妻模擬国連オンライン会議が行われ、ING同好会の中学3年生の3名がメキシコ大使として自宅参加しました。今回の議題は「安全保障理事会改革」。国際連合において唯一制裁決定ができる安全保障理事会の問題点を話し合い、「理事国の議席数拡大」「議席数の地域配分」「決定プロセスの透明性」につ

From France - コリブリエ・日仏高校ネットワーク・動画プロジェクトが完成しました！ -



本校は、複数の外国語を学ぶことを重視しています。約20年前から、フランス語教育に取り組み、フランス政府後援の日本とフランスの高校同士の交流団体である「コリブリエ・日仏高校ネットワーク」に加盟し、日本とフランスの高校生の交流のために、中心的な役割を果たす学校の一つになっています。

今年は残念ながら、日本とフランスのお互いの国の行き来が出来ない状態です。しかし、この困難を乗り越えようと、コリブリエの加盟校が力を合わせて、一つの動画を完成させる動画プロジェクトを行いました。その動画には、本校のフランス語を学ぶ高校2年生の3名も参加しています。

この動画は、以下のコリブリエのHPで見ることができますので、どうぞ、皆さん、ご覧ください。そして、次の再開を目指して、お互いに頑張ってください！

<https://reseaucolibri-francejapon.org/colibri-a-bientot-mes-amis/>

School Schedule - 2020年7/8月の予定 - 今後、変わることもあります。各学年で確認ください！

| 7月 | | | 8月 | | |
|----|---|---|----|---|--------------------|
| 4 | 土 | | 1 | 土 | 夏季休業開始 |
| 5 | 日 | | 2 | 日 | |
| 6 | 月 | | 3 | 月 | オンライン短期留学開始 |
| 7 | 火 | | 4 | 火 | |
| 8 | 水 | 転編入試験 | 5 | 水 | |
| 9 | 木 | | 6 | 木 | IELTS 公式テスト 本校会場実施 |
| 10 | 金 | | 7 | 金 | 学校閉鎖(8月15日まで) |
| 11 | 土 | | 8 | 土 | |
| 12 | 日 | 第1回TEAP(一般会場) DELF(一般会場) | 9 | 日 | |
| 13 | 月 | 高校_考査① 教職員健康診断 | 10 | 月 | |
| 14 | 火 | 中学_考査① | 11 | 火 | |
| 15 | 水 | 高校_考査② | 12 | 水 | |
| 16 | 木 | 中学_考査② | 13 | 木 | |
| 17 | 金 | 高校_考査③ | 14 | 金 | |
| 18 | 土 | 中学_考査③_考査未済者等追試 | 15 | 土 | 停電・校舎電気設備点検(登校不可) |
| 19 | 日 | 第2回帰国生説明会(AM) | 16 | 日 | |
| 20 | 月 | 考査未済者等追試・自宅学習日 高3模試 IELTSオンラインセミナー(15:00-16:00) | 17 | 月 | |
| 21 | 火 | 考査未済者等追試・自宅学習日 高3模試 海外大・国際併願進学オンラインガイダンス(15:30-16:30) | 18 | 火 | |
| 22 | 水 | 答案返却(高3・中3) | 19 | 水 | |
| 23 | 木 | ☆海の日 | 20 | 木 | |
| 24 | 金 | ☆スポーツの日 | 21 | 金 | |
| 25 | 土 | 答案返却(高1・中1) | 22 | 土 | 教職員入試研究会 |
| 26 | 日 | 答案返却(高2・中2) | 23 | 日 | |
| 27 | 月 | 生徒自宅学習日 | 24 | 月 | 一斉部会・職員会議・夏季休業終了 |
| 28 | 火 | 帰国編入試験 生徒自宅学習日 | 25 | 火 | 始業式・LHR |
| 29 | 水 | 生徒自宅学習日 | 26 | 水 | 授業開始 |
| 30 | 木 | 帰国編入試験 生徒自宅学習日 | 27 | 木 | |
| 31 | 金 | 1学期終業式 学年保護者会(WEB) | 28 | 金 | 各種テスト |